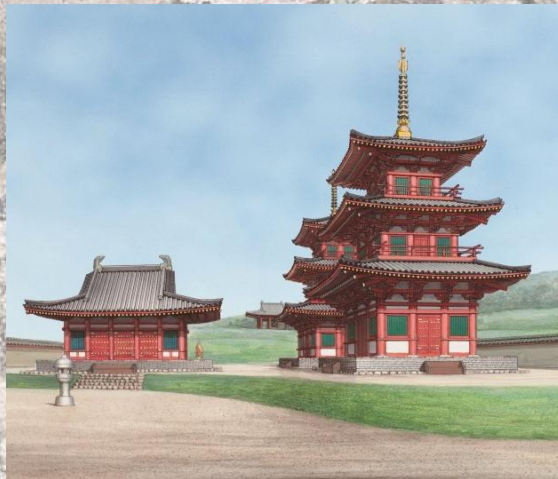




国指定史跡
上淀廃寺跡

National historic ruins of Kamiyodo Haiji Temple

국지정사적 카미요드폐사터



米子市教育委員会

Yonago City Board of Education

요나고시 교육위원회

発掘された上淀廃寺

上淀廃寺跡は飛鳥時代の終わり（7世紀終り頃）に建てられた寺院跡で、平成3年から行われた発掘調査によって金堂跡から、粘土で作った仏像の破片とともに、法隆寺と並ぶ国内最古級の仏教壁画が発見されました。

当時の地方寺院としては、最大規模の寺院で、金堂の東側に、南北に3塔が配された独特の伽藍配置が確認されました。

平安時代中頃（11世紀初め）に火災で焼け落ちたと考えられていますが、日本に仏教が伝わった初期の頃の地方寺院跡として、考古学・美術史上、注目されています。



104号建物跡



133号建物跡



105号建物跡



金堂跡

金堂跡 金堂は本尊を安置する仏殿で、寺院の中心的な建物です。規模は南北12.4m、東西14.8mを測ります。開墾で削られており建物の構造は不明ですが、建物の土台である基壇は塔と同じ二重構造で、石積みの階段も確認されており、南側が正面になるものと考えられます。8世紀中頃に大規模な改修を受けています。

室内には仏像が安置され、内壁に仏教壁画が描かれていたようです。仏像は塑像（粘土で作った像）で、改修前は比較的小さな仏像群、改修後は高さ2.4mの坐像を本尊として大小多くの仏像が安置されたと考えられています。

壁画は法隆寺と並ぶ国内最古級の仏教壁画となり、この寺院が焼失したために、焼き付いて残っていました。

付属建物 133号建物跡は、周辺から「寺」の文字が刻まれた土器が複数出土しており、食器を保管していた可能性が考えられる掘立建物跡です。また、104号建物跡は、食堂（僧侶の食堂）または政所（寺務所）、105号建物跡は、経蔵（お経を入れる蔵）または鐘楼（鐘付き堂）と考えられる掘立建物跡です。

境内の北を区画する溝の北側にある丘陵からも多くの掘立柱建物の跡が確認されています。寺院に関連する施設と思われる建物跡以外にも、上淀廃寺より古く、古墳時代（6世紀頃）に遡るものも見つかっています。これらは、後に上淀廃寺を建立した豪族の館跡であった可能性が考えられています。

北限溝跡 北と西側では境内域を区画したと見られる溝が確認されています。東側では丘陵先端が造成されており、未確認ながら南側にも区画施設と南大門があったと考えられています。全体の地形から見た上淀廃寺は、東西2町（約212m）、南北は推定1町（約106m）と想定され、地方では最大規模の寺院といえます。



境内の北限溝跡



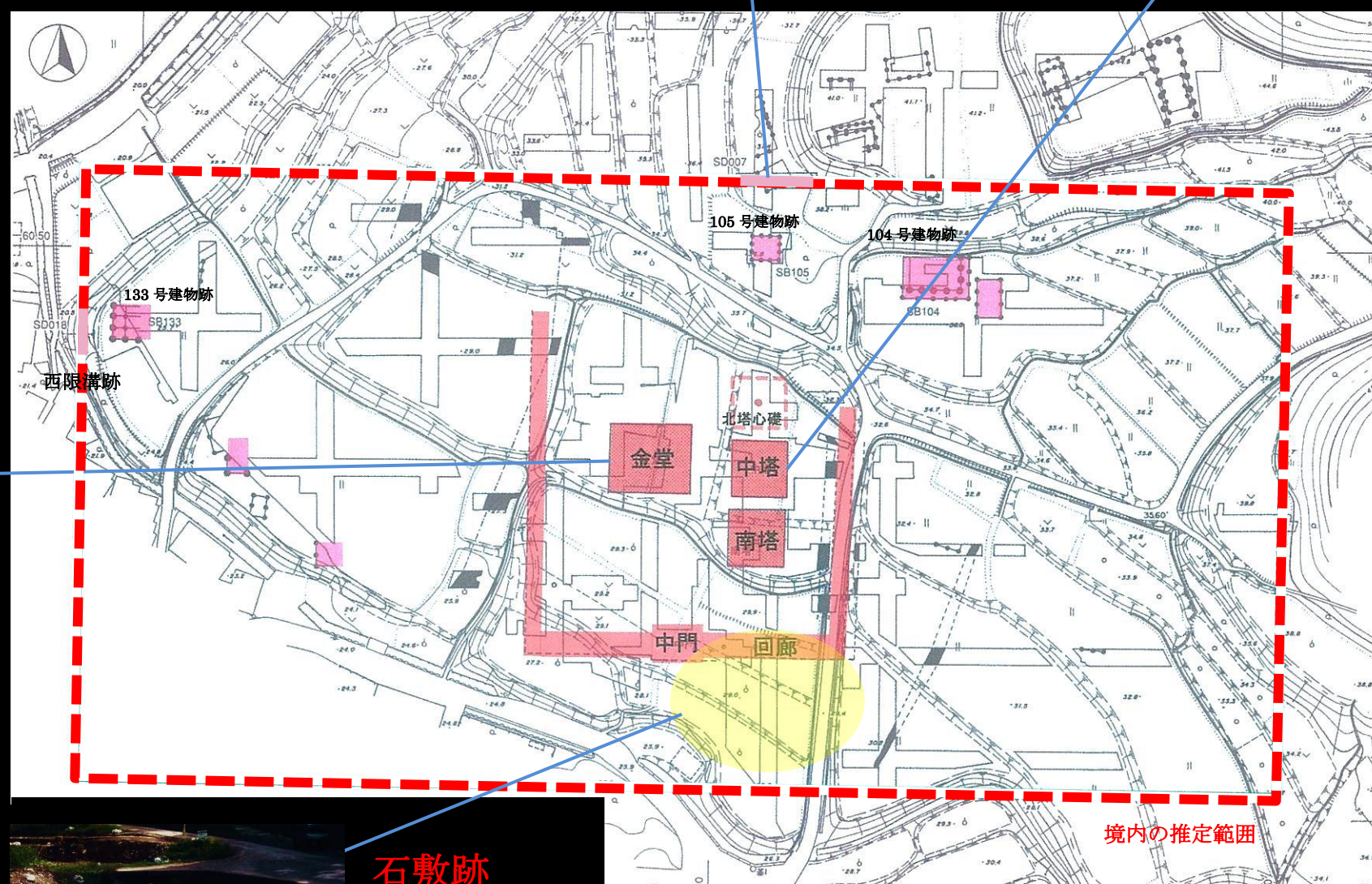
南北に並ぶ塔跡（北塔心礎側より）



中塔心礎



南塔跡



境内の推定範囲



石敷跡

石敷跡

寺院跡の南側を中心に、直径3~10cm前後の自然石が敷き詰められていたことが確認されました。範囲は東西約80m、南北45mと不整形で、寺院中心部の内外に広がります。出土品より、創建から100年後の8世紀終り頃から9世紀初め頃に整備されたものと考えられています。一部では回廊の礎石が覆われているところもあり、この頃すでに寺の荒廃が進んでいた可能性が考えられます。当時の寺の状況も明確ではなく、目的ははっきりしませんが、ぬかるみ対策などの可能性も考えられます。

塔跡 基壇はおよそ10m四方で、瓦積みの外側に石列を巡らす二重の構造になっており、その規模から三重塔と考えられます。中央には心柱を支える心礎石が残っています。

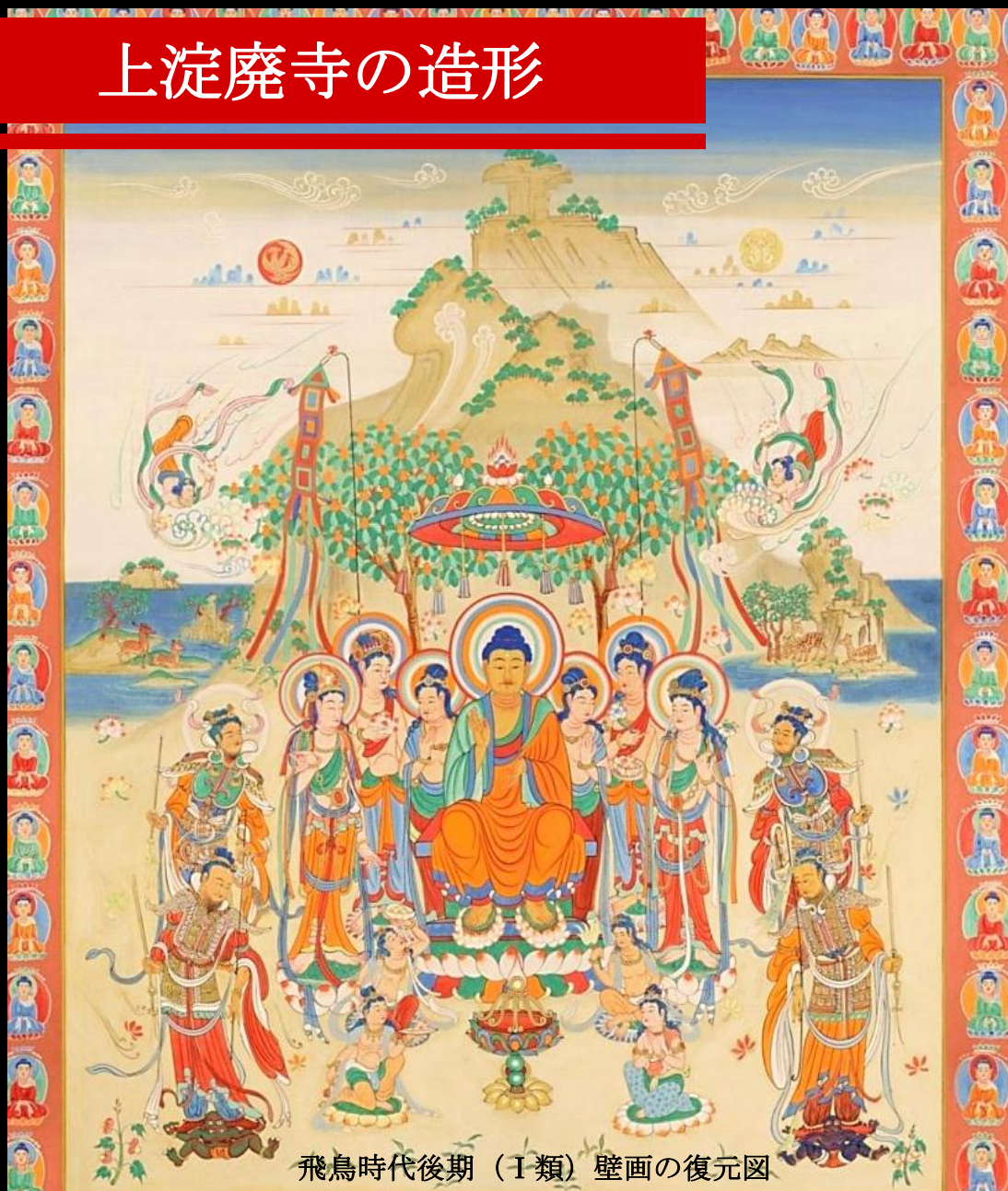
上淀廃寺は南北一直線に3基の塔を建てる計画だったようですが、北塔については塔心礎のみが発見されており、基壇の痕跡が確認されず、実際に建てられていたのかどうかはわかりません。

また、中塔心礎からは、仏舎利（仏の遺骨）を納めるための「舎利孔」と呼ばれる穴が確認されています。

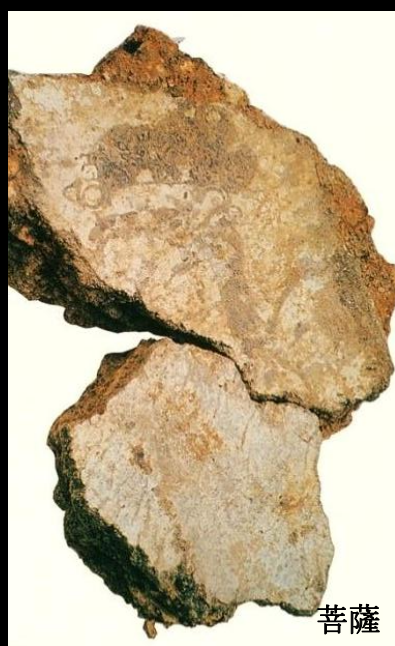


瓦積み基壇

上淀廃寺の造形



飛鳥時代後期（Ⅰ類）壁画の復元図



菩薩



神将の胸甲



如来像の頭皮と螺髪



菩薩像の足指



菩薩像の衣



上淀白鳳の丘展示館に復元された如来像と菩薩



天部像

供養者像



神将



花



Ⅱ類壁画の復元図

壁画 金堂周辺からは、5,394点を数える壁画断片が出土しており、うち1/3に彩色が認められます。火事で焼けたため、ベンガラ、緑青や群青などの顔料を除いて当時の色彩は失われていますが、描かれたモチーフや描法から、大きく2種類に分類できます。金堂の北側を中心に出土したⅠ類は、創建当初に描かれた比較的小さなモチーフのもので、「神将」や「菩薩」、「天蓋」などから、釈迦が説法を説く場面を描いた「説法図」が想定されています。

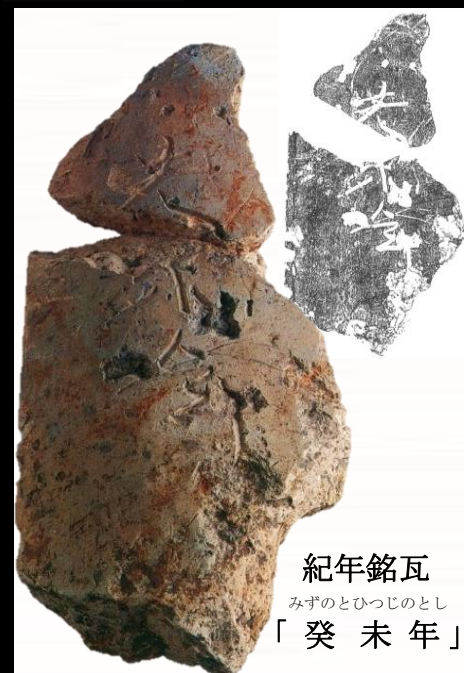
一方、金堂の東西側を中心に出土したⅡ類は、比較的大きなモチーフのもので「頭光背」や「花」、「蓮の台座」などが出土しています。奈良時代中頃に描かれたとみられるもので、比較的小さな仏像に伴う背景の画題と考えられますが、壁画断片ではその中心となる仏像が確認できませんでした。それぞれの出土位置より、Ⅰ類は金堂の北壁、Ⅱ類は金堂の東西壁にそれぞれ描かれていたと考えられています。

塑像

金堂および中・南塔周辺から約3,800点に及ぶ塑像片が出土し、このうち造形が確認できるものは769点あります。これらは概ね新旧二時期に分類できます。古い時期のものは創建期となる7世紀終り頃から8世紀前半の様式で、金堂周辺からは半丈六級如来像の螺髪や2尺級の菩薩像、塔周辺からは2～3尺級の天部像などの断片が出土しています。新しい時期のものは改修期となる8世紀後半の様式で、金堂周辺から三尊を形成していたものとみられる丈六級如来像と1丈級菩薩像の断片が出土しています。

瓦

上淀廃寺跡からは、金堂や塔などの屋根に葺かれていた多くの瓦が出土しています。それらの一つに「癸未年」（みずのとひつじのとし）と刻まれた瓦片が発見されました。これは683年（天武12年）に該当すると考えられ、7世紀の終り頃には上淀廃寺の造営が始められていたことがわかりました。



紀年銘瓦

みずのとひつじのとし
「癸未年」



軒丸瓦

建物の軒先を飾った2種類の軒丸瓦が出土しています。いずれも蓮の花を表した「蓮華文」が施され、花卉が12枚と8枚の違いがあります。前者は、創建時に用いられた山陰地方独特の文様で、「上淀廃寺式」と呼ばれ、島根県安来市の教吳寺や鳥取県大山町の高田原遺跡などからも出土しています。後者は、奈良時代に行われた補修の際に用いたと考えられている瓦です。

復元された上淀廃寺

上淀廃寺跡は、平成8年に国の史跡に指定されました。これまでに、中心伽藍の復元表示等の整備を進め、一般公開を行っています。



金堂基壇復元 金堂跡が発見された位置には、建物の基礎部分である瓦積み基壇を復元しています。

また、基壇の規模、堂内の様子から、柱間が東西5間、南北4間の建物と推定し、柱を支えた礎石を復元しています。

発見された基壇下に至る石段と基壇上には段差があり、木製の階段で登ったものと想定されます。



中門・回廊表示 石敷復元

付属建物表示 2棟の休憩施設は、それぞれ建物跡が発見された位置を立体表示しています。最上段の施設内にはベンチが設置されており、上淀廃寺跡の全景を見渡すことができるほか、淀江平野、日本海を一望することができます。



島根半島

日本海



史跡指定範囲
米子市撮影

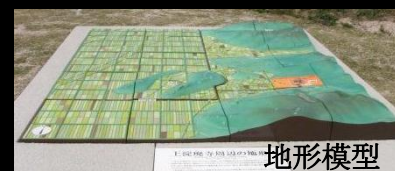
上淀廃寺の中心部は、およそ半町（約53m）四方あり、その南面を回廊、東西面を築地塀、北側を丘陵斜面で区画していたと考えられています。正面となる南面回廊には、中門が設けられており、これらの位置表示を行っています。



東辺築地表示 塔の東側では、2条の溝が確認されています。溝に挟まれた部分の幅は約2.8メートルで、回廊としては幅が狭いため、東辺は築地であったと想定されています。



解説広場



地形模型

解説広場には、上淀廃寺周辺地域を表した地形模型と、休憩施設を兼ねたトイレが設置されています。

上淀廃寺跡のある淀江町福岡地区は、妻木晩田遺跡や向山古墳群など、重要な遺跡が集中しています。これは、一説には古代まで湖であった淀江平野が港として利用され、国内各地や朝鮮半島との交易などによって、経済的な繁栄をもたらされたためと考えられています。

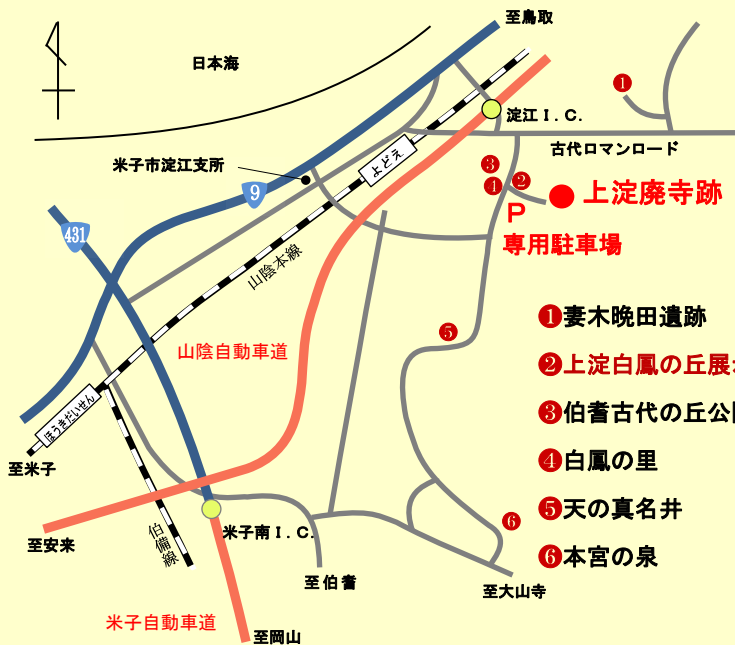


塔遺構復元 塔跡が発見された位置には、発掘当時の塔基壇の状態を忠実に復元したレプリカを配置しています。実際の塔遺構は、地中に保存されていますが、背後の台地上からは、三塔が南北一直線に計画されていたことが確認できます。



上淀廃寺関係年表

時代	周辺地域と日本国内	東アジア世界
古墳	<p>527年 筑紫国造磐井の反乱が起こる。</p> <p>この頃、向山4号墳（淀江町）築かれる。</p> <p>538年 仏教伝来。</p> <p>この頃、長者ヶ平古墳、石馬谷古墳、岩屋古墳（いずれも淀江町）が築かれる。</p>	<p>530年 新羅、初めて仏法を行う。</p> <p>589年 隋が中国を統一。</p> <p>618年 隋滅び、唐がおこる。</p>
飛鳥	<p>593年 日本で最初の寺である法興寺（飛鳥寺）が建立される。</p> <p>624年 寺院建立が広まり、寺数46、僧尼数1385人と伝わる。</p> <p>この頃、晩田山31号墳（淀江町）が築かれる。</p>	<p>660年 百濟滅亡。</p> <p>663年 白村江の戦い。</p>
白鳳	<p>645年 大化の改新。仏教興隆の詔が出される。</p> <p>この頃、大御堂廃寺（倉吉市）などの伯耆の寺が築かれ始める。</p> <p>683年 この頃、上淀廃寺が創建される。</p>	<p>668年 高句麗滅亡。</p>
奈良	<p>710年 平城京に遷都。因幡の伊福吉部臣徳足比売が火葬にふされる。</p> <p>716年 山上憶良、伯耆守に着任する。</p> <p>741年 聖武天皇、国分寺・国分尼寺建立の詔を出される。</p> <p>752年 東大寺大仏開眼供養が行われる。</p> <p>この頃、伯耆、因幡国の国府・国分寺・国分尼寺が建立される。</p> <p>この頃、上淀廃寺が改修され、本尊が丈六三尊像に替わる。</p> <p>759年 大伴家持、因幡守に着任する。</p>	<p>735年 新羅、朝鮮半島統一。</p>
平安	<p>794年 平安京に遷都。</p> <p>1000年頃、上淀廃寺が焼失する。</p>	



上淀白鳳の丘展示館

上淀廃寺金堂内部の復元展示を中心に、壁画・塑像片などの出土遺物や、上淀廃寺建立以前の淀江平野の歴史を語る考古資料を展示しています。

●入館料 300円

●開館時間 9:30~18:00 (入館は17:30まで)

●休館日 毎週火曜日・祝日の翌日・年末年始

〒689-3411 鳥取県米子市淀江町福岡977-2

TEL・FAX 0859-56-2271

Email tenjikan@hakuhou.jp

交通アクセス ●【徒歩】JR 淀江駅より約20分 【車】JR 米子駅より約20分/JR 淀江駅より約5分

●【駐車場】上淀廃寺跡専用駐車場ほか、上淀白鳳の丘展示館、伯耆古代の丘公園の無料駐車場をご利用ください。